

【東総地区】

今求められる高校生への性教育

—健康的な子どもを育むために—

1 はじめに

近年、日本の性教育は遅れていると耳にすることが多々ある。また、出生率の低下も問題となっている。今の性教育の現状を知り、子どもを取りまく性教育について指導の理解を深めると同時に、保育の分野で生徒に還元できればと考え、このテーマを設定した。

2 研修計画

- (1) 令和5年5月17日(木) 研究協議・テーマの決定
- (2) 令和5年8月1日(火) 研修会 「会場：千葉科学大学 母性看護学実習室」
講師 千葉科学大学看護学部 母性看護学 教授 岩尾 侑充子 氏

3 研修内容

講義

- (1) 性周期とホルモン
 - ・すべての女性に共通していること、排卵～14日後には月経が来ること
 - ・若年齢の予期せぬ妊娠＝貧困につながる
 - ・加齢によるエストロゲンの減少により、骨粗しょう症を引き起こす
 - ・葉酸接種は妊娠する1・2か月前から
 - ・日本の食品添加物は海外に比べて多い
- (2) 女性と男性の性ホルモン
 - ・女性ホルモンのメカニズム
オキシトシン・・・思いやる気持ち、睡眠、自己防衛力、社交的等
 - ・年齢による卵細胞数の変化
 - ・妊孕性って何？
妊娠しやすさ・・・25歳がピーク、30歳以降は、そのスピードは早くなる。
早発閉経が存在 30歳までに1000人に一人 40歳までに100人に一人
 - ・女性のライフサイクルと健康
日本人のカルシウム吸収率は小魚がよい
PMSチェック、きちんとした先生に診てもらうことが重要
生理痛＝病院
 - ・性欲の性差・・・男性と女性には差がある
- (3) 日本の出生率
 - ・2022年最低を更新
 - ・合計特殊出生率 227 か国中 215 位

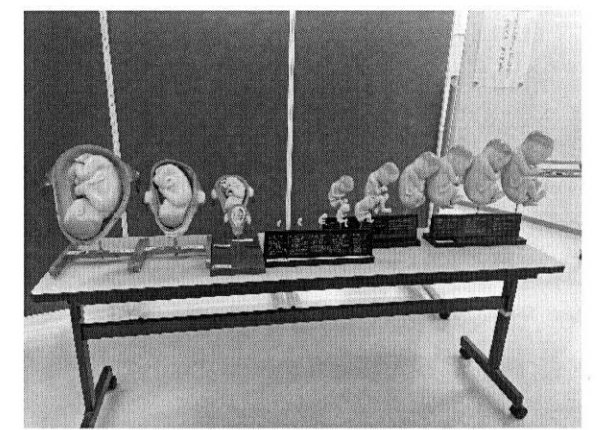
- (4) 妊娠と胎児の成長 ネーゲレ概算法
DVD「小さな生命の詩」

(5) 性感染症

- ・梅毒が急増
- ・クラミジア（性感染症で最も患者数が多い）と尖圭コンジローマ
→ここ10年で最も多い
- ・淋病と性器ヘルペス患者数高い水準で推移

(6) 命の誕生のすばらしさ

動画「生まれる」



4 考察・感想

今回の講義で改めて、生命の誕生の素晴らしさを再確認することができた。自分の体をよく知り、守らなくてはいけないこと、何が正しいのか知ることができた。また、最先端の医療についての話や、高校生に伝えてほしいことなど、保育の授業で還元できる内容が盛りだくさんであった。

(参加者の感想)

- ・命の尊さとそして今ある自分の軌跡を伝えていきたいと思います。
- ・妊娠、出産の最先端の話しが聞けてとても有意義な時間でした。
- ・保健の授業でも扱うことも多い性教育ですが、高校生にとっては何度聞いても良い内容だと思うので、家庭科でもきちんと扱うべきだと思いました。
- ・古い情報のままではだめで、常に勉強していく姿勢が大事と改めて実感しました。
- ・動画についてはどれも感動するものだったので、ぜひ生徒に見せてあげたいと思った。
- ・教科書ではわからないこと、しっかり伝えていこうと思いました。

5 おわりに

研修の準備や講義・実習にご尽力いただきました岩尾先生のおかげで、有意義な研修ができたことを心より感謝申し上げます。